

おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会
2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504 Fax: (310) 323-6737

12月号会報

2014年(平成26年) 12月1日(月)

NO. 160

南カリフォルニア倫理の会の皆様へ

監事 相馬紀子

皆様と再びお会い出来とも嬉しく思いました。

この度も皆様の温かい真心をたくさんたくさん感じながら帰りました。天候にも恵まれ、皆さんにいろいろ案内していただき、西海岸の海の色にロングビーチの夜景に感激し、やはり、アメリカのスケールの大きさは今も目に焼きついております。

山形に戻ったら庭の木の葉も草もみんな紅葉しておりました。巡りゆく季節の中で十二月に入るとこの風景も雪の降る美しい城下町へと姿を変えていきます。

さて、今回は二回目の出張でしたのでいろいろと皆さんと親しくお話が出来、倫理に対する皆さんの思いも理解出来たように感じております。

今年度は倫理研究所の創立七十周年の大きな節目の年にあたります。

この節目の年に南カリフォルニア倫理の会も皆さんが望んでいるように大きく創生いたしましたように。

そして普及元年と銘打って『やりましょう！ 見せましょう！』南カリフォルニアの底力を！』を合言葉に、大きく飛躍出来るように楽しく嬉しさいっぱいで動いてまいりましょう。

皆様と過ごした数日を思い出しながら、これからも精一杯お手伝いさせていただこうと決心しております。皆様と又お会い出来る日を楽しみにしております。

会員総会

十一月二日(日)午前八時三十分より倫理研究所において、二〇一五年度倫理研究所USA会員総会が開催された。

当日は、曇り空で、ロスアンゼルスに秋の到来を告げる空模様であった。

伊澤潤子さんの開会の合図と共に出席者二十二名、委任状六十六名の過半数で総会が成立した。

はじめに、橋勝雄会長から二〇一四年度の活動報告が読み上げられ、次に、前田グレース・トレジャラーから、昨年度の決算報告と今年度の予算書の報告がされた。

決算・予算報告に関して、意義はなく、満場一致で採決された。

最後に、倫理研究所・相馬紀子監事より、もつともっと倫理普及に力を入れてほしい。そして、周りの人たちが幸せになるようにがんばってください。と力つよいお言葉を頂き、総会は、九時五分に無事閉会した。

(川田末子記)

ビジネスネットワーク

十月三十一日(金)午後七時から九時、相馬紀子監事を迎え倫理オフィスにおいてセミナーが開かれました。

『私と倫理』(山形県家庭倫理の会立ち上げと法人会設立について)という内容です。

ハローウインの当日、月末という環境下もあつて参加者は四名と少なかつたです。しかしながら相馬先生の実践体験を通してお話は人数に関係なく熱の入った素晴らしいものでした。

『丸山敏雄伝』の中にあつた、二人の聴衆を前に講演をされた創始者とかぶるものがあり感動しました。

山形が出来て、アメリカができないわけが無い、と思

ます。まずは『普及』からです。頑張ります。

(参加者四名)
(飯田隆記)

純粹倫理勉強会

十一月一日(土)午前十時より相馬紀子監事をまねいての純粹倫理勉強会が開かれました。

相馬先生は丸山竹秋会長の興味あるお話をしてくださいました。二代目である会長はとても大事な業績を残されたことに感銘をうけました。「丸山敏雄全集」の刊行、富士高原研修所の建設、支所、地区体制の確立、倫理法人会の設立などの組織的展開をなされたこととです。これも、楽にや

たことではなく経済的にも苦しい中での苦勞話がありました。聞いていた一同おどろきました。

この相馬監事は山形県の出身であります。山形県で最初の倫理の会の立ち上げを頼まれ、引き受けた方でありました。先生は『業』の第一条の「即行」の実践の重要性を説かれました。「気づいたらすぐに行う」です。

① 気づいたときが最高のチャンス、気づくと同時に行う、即行の原理です。そしてわがままな心を捨てることだそうです。

② 即行は「朝起き」から、朝は目覚めたというのは、「起きよ」という天の命令にほかならないので、すぐ起きることが大事だそうです。
ぜひ実行しましょうね。

(参加者十一名)
(榎川往代記)

相馬先生と共に

十一月二日(日)懇親会には皆様の心のこもった手料理で心も体も楽しく美味しく頂きました。

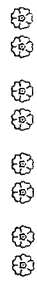
懇親会の後、相馬紀子先生と前田グレースさん、梅本和子さん、杉野和子さんと一緒に Palos Verdes にある有名なガラスの教会 (The Wayfarers Chapel) へ行きました。珍しくカタリナ島がくっきり見えるほど澄みきった天候であまりの海の美しさに来られて良かったとつくづく思いました。
教会の回りには噴水があり花壇

が整理され綺麗なバラやパンジー、ツツジ、ブルーゲンベリヤ等沢山の花が季節に関係なく咲きほこつていました。バラの香りを嗅いだらその花びらから離れたくないほど良い香りがしました。その後 Trump Golf Club によりバルコニーの一等席でお茶をしました。

相馬先生とお友達のようにキヤーカー笑いながら楽しくおしゃべりさせて頂きましたことが忘れられない思い出になりました。

今日一日有意義な日を送らせていただきました。皆様に感謝いたします。

(藤間 富士子記)



丸山竹秋著

『岐路に立つ』

なぜ倫理運動の道を選んだか

『丸山敏雄 人と思想』

『地球倫理の時代』

読んでみて下さい。

敏秋理事長著

『竹の心』『竹のごとく』も合わせて読んで下さると故丸山竹秋

会長の心がわかります。

『職場の教養』

(二〇一四年十月三日)

資源は有限

十月は「3R推進月間」です。3Rとは、ゴミを減らし、循環型社会をするためのキーワードで、リデュース(減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再資源化する)の頭文字Rを取ったものです。
ゴミはすべて元をたどれば貴重な資源です。空気も水も、生きとし生けるものすべての共有財産であり、地球の貴重な資源です。そうした資源に感謝しながら生活し、日常生活で心がけたい事例を紹介しましょう。

- ① 庭やベランダに木を植える
- ② 緑を大切に作る
- ③ 清掃を徹底する
- ④ ゴミを持ち帰る
- ⑤ 紙を大切に作る
- ⑥ 電気を節約する
- ⑦ ガソリンを節約する
- ⑧ 水を節約する
- ⑨ 水を汚さないようにする
- ⑩ 物のリサイクルをはかる

これは本誌の発行元・倫理研究所の故・丸山竹秋会長が、「地球をよくする十の実践」として提唱した十項目です。「資源は有限」を肝に銘じて、職場や家庭で無駄はないかを点検して、資源を有効に使う工夫を心がけましょう。
今日の心がけ
資源を大切にしましょう

実践報告

受容 二班 ホン史子

顔さえみれば健康診断を受けろという主人を、必要無いと強情に突っぱねて来ました。今回会社が突然一ヶ月の休暇をくれましたので、私が折れて健康診断を受けることにしました。心臓、歯、乳癌検査、胃内視鏡、腸内視鏡を済ませました。が、予約、運転など全て主人がしてくれました。全部終わった日、あらためて主人にお礼を言いました。主人は私が健康で良かったと晴れ晴れした顔でした。主人を受容して、また温かい家庭になりました。

倫理セミナー

十一月二日(日) 午前十時半より倫理オフィスにおいて倫理セミナーが開かれた。

「家族の絆」―暖かい家庭、温かい心―と題し、相馬紀子監事に講話をして頂く。

昭和二十年代の日本の母親は、世界で一番の子育て上手だと言われていた。物が無く貧しいけれど精神が豊かで、皆が小さなことに喜び、感謝感動した。三世代同居が当たり前で、親子の関係は祖父母がクッション役となり、家族の絆が強く、思いやりの心や感動することが自然と子供達の身についた。

が、高度経済成長期に入り、核家族化が進み、家族の絆は希薄となってゆく。そうした親の愛を知らずに育った、大人になり切れない親が、子育てをする今、子供の虐待や子殺しが頻繁に起こっている。子供の情緒安定度や学力や運動神経などに於いて、三世代同居家族で育つ子供達の数値が高くなることの研究発表されている。

東北大地震で、家族や地域の人々の絆が深まったように、孤食を避け、同じ食べ物を共に分け合い、小さなこと

に喜びを見出してゆく作業が、現代の人々には求められており、祖父母との同居が見直されつつある。虐待を繰り返す大抵の親は、自分自身を受け入れることができず、親も嫌い、子供も嫌いという連鎖が起こっているという。

こういう人は、どんなにみじめで嫌な自分でも、そのままを受け入れ「受容する」ことが大切。百点満点でなくてよい。五十点の自分を受容することができようになり、五十点の自分の子供も受け入れられるようになれたという親子の話を紹介された。「大丈夫だよ。本当の自分を見失っていたんだよね」と受容の言葉を相馬先生にかけてあげると、そのお母さんは「子供が生きてくれていてるだけで有難いと思えた」と、大きく変わった。

先生ご自身の体験も話され、五歳頃、熱を出して寝ていると、日が暮れてきた。薄暗い向こうの部屋では家族が楽しそうにしている様子が伝わり、寂しくなってしまう。泣き出してしまった。そこへ父親がやって来て、自分の寝ている蚊帳の中に蛍を五匹、放してくれた。その光の美し

さに泣くことを忘れてしまった。蛍の季節になると、「早くよくなれよ」と励ましてくれた父が思い出される。また母親も茶碗蒸しを作り、「熱いから気をつけろ」と自分を気遣ってくれた。そういう小さな優しいさの行為の積み重ねと、感動を親子で共有することが、その子供の人生に愛情を植えつけてくれ、次の世代へと順送りしてゆくことができる。両親の愛によつて支えられていると感じられる人は難病や障害をも越えられる大きな力を発揮できることを、詩画家の星野富宏さんや盲目のピアニスト、辻井信行さんを例に挙げられた。

人生で思い通りにならない時、想いを受け止めてくれる両親、ご先祖がいてくれることを想い、(今はこうだけれど・・・)と希望を持ち、親に繋がり、夫婦で繋がり、子供の正しい親になることを務めて行きましようと話された。具体的な例がこの他にも多くあり、参加者は何度も胸を詰まらせ、涙を滲ませた。感動の詰まった温かいセミナーとなった。

(参加者二十九名)
(草野律子記)

セミナーの感想

「家族の絆」をテーマに講師相馬紀子監事に十二時まで心温まるいろいろなお話をさせて頂きました。

最初は、相手を変えるのではなくて自分を改める。自分が変わると相手も変わるといってお話でした。

次に小さなことにも感動できる心、道端に咲く花を見て感動できる心、「とても可愛い、綺麗」と感動するとその子供も感動出来る人になってゆく。人の悲しみ、痛み、儂さが分かればその子供もそれが自然と身について優しい人になれる。

素晴らしい人は愚かな人からでも何か学び取ることがある。愚かな人は素晴らしい人からも感動することが出来ないの、何も得られない。

一人一人に感動出来るように接する。皆から可愛がられる為に生まれて来た。人の心は人によって傷つけられ、人によってしか癒されない。

お話を伺った後なんだか胸がジーンとして、これからもっと幸せになれるような気がいたしました。ありがとうございます。ありがとうございました。

(藤間富士子記)

おめでとうございます

『しきなみ』十一月号

群螢集 (西東京・海外)

一席 ホン史子

乾きたる土の上走るとかげの子さ庭は彼の
一世の世界

【評】良く観察され「とかげの子」が生々と浮かび
ます。「二世」の言葉に、とかげの子に対する
愛情と共に、今、この場所で生き抜く己を重
ねている気がします。味わい深い一首。

飛雲集 (西東京・海外)

入選 伊澤潤子

免許取りさらなる自由得た吾子はそれより
重い責任知らず

青泉集 (西東京・海外)

入選 飯田隆

友来たり盃交わして語りあう知らず知らず
に大声談義

『秋津書道』十一月号

競書

入選 滝川政和 芸術部 (碧の部)

一席 梅本豊造 高等部 (東京)

六席 堀井幸江 々 々

入選 咲田静子 々 々

入選 長谷川きみ子 々 々

入選 草野律子 一般部 (東京) 行書

入選 脇山由希 々 々

入選 増中恵美子 々 々

二席 竹内康子 一般部 (東京) 楷書

入選 大竹信雄 々 (々) 々

入選 高橋ひとみ 々 (々) 々

入選 ノーリスてるみ々 (々) 々

調和体

入選 滝川政和 芸術部 (碧の部)

入選 咲田静子 高等部

子晚々

息涼氣

南カリフォルニア 梅本豊造

1席 梅本 豊造

気品に満ちた作品で筆遣
いが巧みである。

カ乃勿

句菊蜀

南カリフォルニア 竹内康子

2席 竹内 康子

スッキリとした線質に心
のさわやかさを感じる。

しきなみ短歌

遠来の娘と話す夜半まで胸のいち物吐き出
すように 森田のりえ

新しき歌友の短歌に新鮮な言葉を見つけ嬉
しくなりぬ 草野律子

線香が母の記憶を呼びもどす六十年の時超
える鍵 摺木洋子

虫食いの葉はひらひらと枝離れ一足先に
落葉になりぬ 松元依子

退職後夫は血洗いに専念し我は料理に趣向をこ
らす 滝川歌子

晩秋に近づく歩道にコスモスの明るく揺れて早
朝目覚める 奥本洋子

絹雲の流れる先に白き月見え隠れするゆきあい
の空 杉野和子

残されし三人の子と孫達と亡夫に感謝す日々の
暮らしに 長谷川松子

根か種か山火事に耐えた丘おかに命芽吹きて菜
の花続く 塩出笑子

カツ井を「うまいうまい」とたいらげたまだイ
ケる父齢八十二 伊澤潤子

朝顔が咲いたと喜ぶ妻が云う小さな花が心なご
ます 飯田隆

吾の右手しつかり握り外股で一步一步と真剣な
パーカー 梅本豊造

従兄らが今か今かと待ち焦るパーカーの一步は
黄金の一步 梅本和子

如何ように調理されても美味ですよ組板の上の
秋茄子の声 門園美枝子

水飲めば細胞隅々潤いて海ゆ生まれし原始の心
地 ホン史子

明らけき満月の下のジャカラダ深く沈もり眠
りにつくらし 松永典子

最新の技術と智慧を先取りし今の時代を生きる
に感謝 尾崎よしみ

朝起きてスズメのえさを今日もまき何羽くるの
か窓から数える 与那覇寛雄

採血の終わり告げられ安堵するちから入らず垂
れる右腕 矢口裕司